

1. 研究目的

私は5年間本校でデザインを学んできた過程において、使用してきた多くの画材に興味を持った。

画材一つ一つに触れる時間は少なく、得られた技法も微々たる物であった為、更に画材の持つ特性を研究し、それを1つにまとめたいと思った。多くの人に絵を描くことへの興味を持ってもらい、また自身の技術向上に努めたく、このテーマを設定した。

2. 調査と分析

多くの人々により分かり易く見てもらうため、使用画材を義務教育時に使用するもの、また色彩の効果を見る為絵具(顔料を定着剤で混ぜた画材)に設定し、学童用水彩絵具、クレヨン、色鉛筆、パステルの4つに絞った。

使用することにした画材一つ一つを水彩画の基本の技法(ウォッシュ、平ぬり、ドライ、ハッチング、ぼかし、たらしこみ等)を基準にしたもの、そして火器や粘着テープ等を使用した特殊な方法、設定画材それぞれの特性を活かした表現法を研究し、比較しながら、4種それぞれの向き・不向きな点を踏まえ、表現技法、混色法(重色法)、特性をまとめた。

3. コンセプトの立案

一つの作品にまとめるに当たり、場面一つ一つがそれぞれの画材の表現に適し、特性を見せることが可能な子供用絵本1冊にまとめることにした。

内容としては主人公が冒険をしていく中で出会う様々なシーンを画材や表現を変え、構成していく。読者が一つ一つの場面の差異を感じ、「どういう風に描いたんだろう…？」と興味を持つ一冊にしたいと考えた。

4. デザイン展開

画面の構成から迫力が出せるよう、絵本の見開きの形はB5を縦に並べた長方形に設定。(畳んだ場合はB5サイズ)。また色彩の特性を活かす為に主人公の色は無彩色(白)に設定し、どんな場面でも見つけ易くした。

使用する画材や作成する絵本が子供向けのため、主人公は動物(白ふくろう)に設定、他の登場

人物も動物に限定するなど、読み易さを重視した。

5. 完成図



6. 結論

画材を絞り、技法も絞って実際に使用して作品制作に取り組んだが、ページごとの色の濃度を濃度や雰囲気統一することが難しく、また、一画面に使用する技法の数を限定しなかったため、絵としての一枚一枚の完成度に差が生じてしまった。

研究した中で使用されなかった技法もあり、一冊にすべてをまとめきれなかった。

内容としては技法を通して登場人物の表情や場面の表現は画材・技法を変えることである程度表現できたと思う。

7. 参考文献

- ・水彩アート入門(入門シリーズ)/遊友出版
- ・ART NAVI
<http://www.artnavi.ne.jp>
- ・水彩Q&A
<http://sui-sui.com/>
- ・なおみのこてんこてん
<http://homepage3.nifty.com/crayon-naomi/index.html>
- ・株式会社サクラクレパス
<http://www.craypas.com/>
- ・ペンシルLabo
<http://www.pencil-labo.net/>
- ・鉛筆友達
<http://www.pencil-friend.com/>